

2018年8月18日子どもの日本語教育研究会
地域の進学支援を通して
～家庭の意識・環境と進路選択～



特定非営利活動法人
みんなのおうち
代表理事小林普子

内容

- 1、特定非営利活動法人紹介
 - 2、地域の特徴
 - 3、子どもの抱える問題
 - 4、地域の学習教室「こどもクラブ新宿」
 - 5、「こどもクラブ新宿」の様子
 - 6、進路に向けての取り組み
 - 7、教室外での取り組み
- 取り組み事例紹介

1、特定非営利活動法人みんなののうち

「NPO法人みんなののうち」の理念は、新宿と言う都会で子育てをとおして知り合った不特定多数の家族の縁を「知縁」として集い、子育て、子育て支援及び、都市コミュニティの再生に寄与することを目的としている。

自然体験、地元イベント参加、親子お手伝い、異文化交流、多世代育児参加支援等の自主企画事業を内包しながら、親子遊び事業、仲間遊び事業等を知り合った子育て家族の継続交流支援、外国ルーツの家族支援事業、子育てに関する講演、助言又は支援協力、子育て、子育て支援、子ども冒険遊び支援、虐待防止支援等各団体との連携事業等実施してきた。事業は多岐に渡っているが、常に子どもを中心として考える点をもっとも基本としている。

2、地域の特徴

2018年4月：区民342,297人、外国人区民42,428人 **区民12.4%**

国籍数133ヶ国

第一位中国13,727人(32.4%)、第二位韓国9,998人(23.6%)、

第三位ネパール3,657人、第四位ベトナム3,489人、

第五位ミャンマー2,189

2018年新成人の内、45%が外国籍

- ・親は地域の人たちとの交流が少なく、同国人コミュニティに依存して生活をしているケースが多い。
- ・日本の習慣や社会的ルールを理解する機会が少ない。
- ・町会などの組織を知らないため、情報が入らない。
- ・日本語が読めない場合には、情報があっても理解できない。
- ・行政の紙ベースの発信が中国語・韓国語・英語・ルビ振り日本語

3、子どもが抱える問題

1) 経済的困難

多くの家庭が生活保護、保護者は複数場所で仕事

2) 不安定な家庭

- ・父親が日本人の場合の父親からのDV
- ・シングルマザー、母親からの見捨てられ感或いは母親が離れない

3) 情報不足による社会システム不理解

- ・正規／非正規・派遣・アルバイトとの違い
- ・社会保障
- ・税金

4) ビザの問題

- ・家族滞在ビザからの変更(30年2月入管の通達による緩和)
 - ・公用ビザからの変更
 - ・高卒では高度人材にならない
- ビザ変更は難しい:ビザ発給は日本政府の基準による

4、地域の学習教室「こどもクラブ新宿」

「こどもクラブ新宿」の立ち上げ

- ・「こどもクラブ新宿」が外国にルーツのある子ども達のためのと学習教室として2007年、NPO法人みんなのおうちと区との協働事業として開始

「こどもクラブ新宿」の趣旨

- ・子ども達が日本社会において個人として生活するために十分な準備が整えられるように、日本語学習や教科学習をサポートし、差別される事なく社会で生きていけるようにする。
- ・「こどもクラブ新宿」に集ういかなる人々も人間尊重の精神を基盤として共に生きる事を考え、学ぶ事ができるようにする。

「こどもクラブ新宿」の目標

- ・自分の日本語力を正しく知り、夢と希望を持って高校進学ができる生徒に成ってもらおう。

5、「こどもクラブ新宿」の様子

1) 語彙獲得

- ・教科書の音読を介して語彙を増やす。
- ・ボランティアと日本語で話す事で語彙を増やす。
中学来日生は学校では日本語を話さない
- ・ボランティアの年齢層が大学生から70代と幅があり、様々な社会経験を話してもらえ、家庭内で得られない知識・情報・語彙を増やす。
- ・「てのひら文庫」で語彙と読解力をつける。

2) 教室の特徴

- ・小学4年生～中学3年の長期間関わりが可能で長期的視野に立てる。
- ・日本人の大人と日本語で話す機会がある。
- ・教室全体が大家族的である。
- ・ボランティアと生徒がほぼ一体一で、生徒に応じた対応ができる。
- ・教室卒業後も関わりが継続する。

3) 成果

- ・全員高校進学ができ、卒業生135人中高校中退者は3人である。
- ・高校合格で自己肯定感が持てる。
- ・親子関係の改善
- ・もし教室に来ていなかったら、多くの生徒が夜間定時制に進学

4) 課題

- ・学力の下支えはできるが、大幅に偏差値を上げられない。
- ・親の姿が見えないケースが多い。
- ・事業が教育委員会との協働でないので、学校との連携ができない。

5) 改善への取り組み

- ・教室外での企画を実施
- ・「居場所みんなのおうち」を開設
- ・他団体との連携

6、進路に向けての取り組み

1) 高校を決める基準

- ・当事者の経済状況や家庭状況から、当事者と相談を重ね、納得できる高校進学先を決める。
- ・就職に有利な高校(工業・商業)を選ぶ
- ・高校進学の際、大学進学・専門学校が可能か見極める

2) 高校卒業後を決める基準

- ・高校卒業後、正社員の道を選ぶ
- ・大学進学は経済的問題を重視
- ・家庭状況を見る
- ・学部選びを考える(就職先)

3) 課題

- ・大学・専門学校進学以外、高校卒業者の65%が非正規雇用
- ・奨学金と言う借金を抱える

7、教室外での取り組み

教室外での取り組みは、人との交流、様々な経験を積む、失敗を経験することで、語彙の獲得、社会力を身につけることを目指している。

- 1) 映像制作ワークショップ企画運営(小・中・高校生・社会人)
グループで作品制作:映像制作のアイデアを達成するために一体感で取り組む
- 2) 多文化交流会の開催企画運営(参加小学生以上社会人、毎年100人を超える)
卒業生・親・ボランティア・家族・友達が集い各国の料理を楽しむ
- 3) しんじゅく多文化防災フェスタの手伝い:行政に存在をアピール(高校生・社会人)
ダンスパフォーマンス・通訳・会場運営
- 4) 職業体験参加(中学生のみ)
企業の役割を知る
- 5) 「居場所みんなのおうち」運営手伝い(中学生以上)
子ども達が相互に共感出来ることで他人を思いやる経験
- 6) 経験談発表(高校生・社会人)
自己を振り返るきっかけになる

課題

- ・卒業生全てが参加できない
- ・各種助成金で運営しているため資金難

事例1、：職場体験事業：企業の協力

ハンバーガーショップSHACK SHAK での職場体験：企業理念に感動した参加者



事例2：地域とのつながり事業：居場所みんなのおうち開設

NPO法人10代・20代妊娠SOS新宿と共同運営

居場所では子ども達が自立に向けの社会性を身に付けるために、料理、掃除、金銭管理等の日常生活の仕方や社会常識の習得を図る。

自習する習慣、他人との関わり、自己の問題点を認識する、協力する等

自習風景



誕生会の様子

